

第3期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略策定に向けた 若年女性の意見集約について

1 目的

第3期の丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）の策定に向けて、①本市がターゲットとすべき「人物像」の具体化と②地方回帰を検討するターニングポイント（きっかけ・動機付け）を明確化するとともに、③「人物像」に焦点を絞った施策展開（ポジティブアクション）を検討する基礎資料とするため、市内外の若年女性にアンケート調査やワークショップを実施する。

2 第3期総合戦略に係る政策ターゲット（人物像）について

（1）社会減対策について

令和6年4月に人口戦略会議から「令和6年・地方自治体『持続可能性』分析レポート」が発出された。本市では、若年女性の人口減少率が50%を下回ったことから、消滅可能性自治体から脱却できたものの、依然として高い水準にあり、危機的な状況が改善したわけではない。これに加え、本市においては、若年女性の進学等に伴う転出（社会減）に対して、就職期による再転入（社会増）の比率（以下「回復率」という。）は男性と比較しても、著しく低いことから、第3期総合戦略においては、より一層社会減対策に注力していく必要がある。

封鎖人口 移動仮定	減少率 20%未満	減少率 20～50%未満	減少率 50%以上
減少率 20%未満	A 自立持続可能性	D-① 自然減対策が必要	B-① 自然減対策が極めて必要
減少率 20～50%未満	D-② 社会減対策が必要	D-③ 自然減対策が必要 社会減対策が必要	B-② 自然減対策が極めて必要 社会減対策が必要
減少率 50%以上	C-① 社会減対策が極めて必要	C-② 自然減対策が必要 社会減対策が極めて必要	C-③ 自然減対策が極めて必要 社会減対策が極めて必要

（注）縦軸および横軸の「減少率」は、若年女性人口（20歳から39歳）の減少率

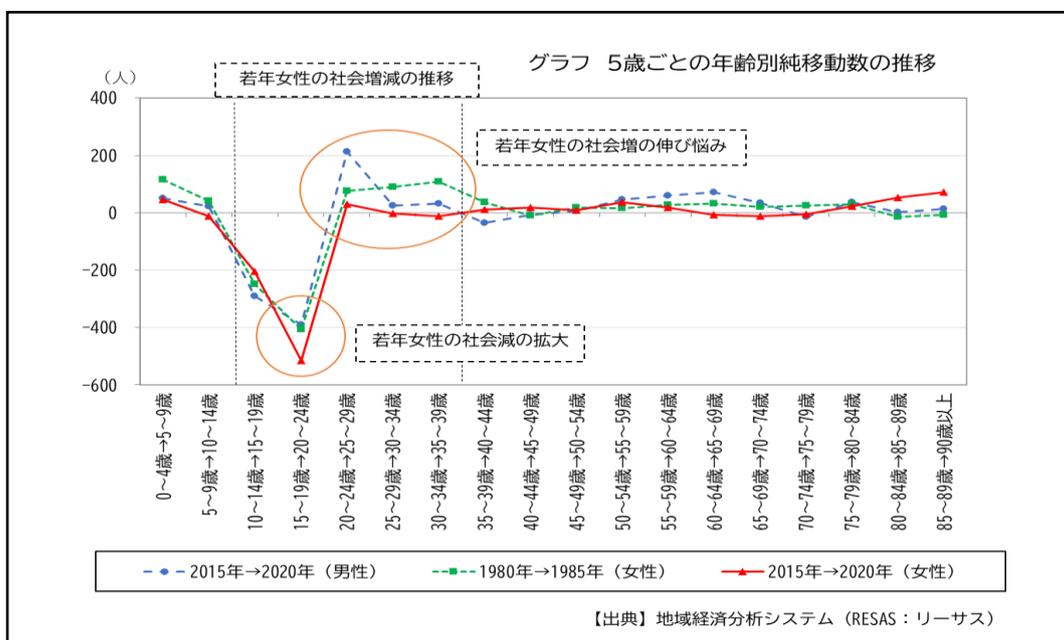
【出典：令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート】

（2）「人物像」の具体化

第2期総合戦略では、第1期総合戦略の方向性を継承しつつ、本市の人口動態などを踏まえ、焦点を当てる対象として、「10～30代」・「女性」・「阪神

間」の3点を政策ターゲットに掲げるとともに、施策のブラッシュアップを図ってきた。この結果として、令和2年国勢調査においては、第2期丹波市人口ビジョンの目標人口を概ね維持することができたなど、成果が見え始めてきた。一方で、国の地方経済分析システム RESAS における若年女性の回復率は、1980年代には40%程度を維持していたが、2000年代以降急激に減少し、2020年時点では2%にまで減少している。

これは、若年女性が一度本市から転出すると、戻ってこない現実を如実に表している。このことから、本市が将来に渡り、持続可能な地域を形成するためには、これまでの「漠然とした若年女性」という政策ターゲットを掲げるのではなく、さらに地方へ転入（地方回帰）する可能性が高い「人物像」を具体化し、焦点を絞った取組を展開する必要がある。この「人物像」に対して、地方回帰を促すターニングポイントの把握や取組むべき施策を検討するため、若年女性へのアンケート調査やワークショップを行うこととする。



（3）ターゲットとする「人物像」

本市では、若年女性へのアンケートやワークショップを実施するにあたり、人生の節目となるターニングポイントにおいて、地方回帰の可能性がある「人物像」を次のとおり仮定する。

①Uターン者

- ・丹波市出身の26歳の若年女性（第2就職期のUターン者）
- ・新卒4年目で仕事にも慣れたが、異動や転勤の時期が近付いている。
- ・なんとなく都心部の民間企業で働いているが、こだわりがあるわけではない。
- ・現在の住んでいる地域には会社の同僚との付き合いはあるものの、友人がおらず、休日にはやることがない。

② I ターン者

- ・丹波市外の出身の女子大学生で、大学卒業後は都心部等で就職を予定している。
- ・学生時からの専攻分野に基づく働き方ではなく、いわゆる一般職に就いている。
- ・都心部出身または出身地への帰属意識（家を継ぐ・お墓を守るという意識）が乏しい。
- ・趣味の一環として、休日は都会から足を延ばして、気になるお店や映えスポットを巡っている。

3 人物像や取り組むべき施策検討にあたってのプロセス

(1) 施策検討にあたっての観点

本市がターゲットする「人物像」に焦点を絞った施策を検討するにあたり、①ふるさと住民として市外に転出された方（Uターンとしての視点）、②市内の高校生（将来の丹波市を担う若者の視点）、③武庫川女子大学の学生及び付属高等学校の生徒（Iターンとしての視点）、この多角的な方々から意見を確認・集約する。

(2) アンケート調査の実施

ア. 対象者：10～30代のふるさと住民（女性）

武庫川女子大学の学生

武庫川女子大学附属高等学校の生徒

イ. 目的：市外在住のU・Iターンの視点となる対象者にアンケートを実施し、仮定した「人物像」への取り組むべき施策を抽出する。

ウ. 実施時期：令和7年6月

(3) ワークショップの開催

①市内在住・在勤の若年女性とのワークショップ

ア. 対象者：市内在住・在勤の若年女性（市内事業所で働く若年女性）

イ. 目的：アンケートにより抽出された取り組むべき施策のなかから、本市の実情に合った取組にブラッシュアップし、総合戦略推進委員会及び各課の施策検討にあたっての基礎資料とする。

ウ. 実施時期：令和7年7月

②市内高等学校の女子生徒とのワークショップ

ア. 対象者：市内高等学校の生徒

イ. 目的：高校生が考える本市の課題（市外への流出など）について、意見交換を行い、総合戦略推進委員会及び各課の施策検討にあたっての基礎資料とする。

ウ. 実施時期：調整中

4 今後の予定

		令和7年度				
		6月	7月	8月	9月	10月
国	基本構想の発出	まち・ひと・しごと総合戦略の検討				
丹波市 (市議会)					市議会（第3期総合戦略の策定状況について）	
丹波市 (推進委員会)	第1回推進委員		市内女性とのワークショップ	第2回推進委員会（基本構想に係るWS）		第3回推進委員会（若年女性に係る基礎資料に基づいたWS）

令和7年度				令和8年度	
12月	1月	2月	3月	4月	6月
まち・ひと・しごと総合戦略の発出					
		市議会（第3期総合戦略案について）		市議会（第3期総合戦略について【報告】）	
	第4回推進委員会（第3期総合戦略案について）		パブリックコメント		第1回推進委員会（第3期総合戦略について【報告】）